大津市 Education center 教育センター 所報 No.215
令和６年３月 発行
〒520-0814
滋賀県大津市本丸町６番５０号
電話　077-522-1910
Ｆａｘ　077-522-2297

子どもたちが置かれている状況と教師の役割

教育部次長　冨永 幸彦

学校夢づくり＋（プラス）（作家やアナウンサーなど表現のプロやスポーツアスリートを学校に派遣する学校教育課の事業）の後、多くの子が「夢を持つことの大切さがわかった」と感想を述べます。

しかし、特に中学生の感想の中で意外に多いのが「夢を強要する感じでなかったのがよかった」「夢を持つのに焦る必要はないと話してくださって、心が軽くなった」というようなものです。こういう声に、私たちは敏感にならなければならないと感じています。

経済的に恵まれていても、世間体や体裁ばかり気にする親の元で、親の敷いたレールの上を走るように言い聞かせられ育てられている子どもがいます。

詩人・エッセイストの豆塚エリさん※は、「親や先生の中には、未だに、子どもを半人前扱いし、コントロールしようとする一方で、結果が出なければ『努力が足りなかったね』などと、子どもに自己責任として押し付ける人がいる。明らかに子どもの人権が軽視されている。」と警鐘を鳴らしています。

つまり、子どもたちは大人から「将来のため」と生き急がされているのではないかということです。

また、一方では、家族から十分な愛情を注いでもらえず放置され、日々を生きるのに精一杯で、夢や希望なんて描けない子どももいるでしょう。

このような状況を踏まえ、私たち教師が考えるべきことが2点あると思っています。

１点目は、「今」をどれだけ楽しみ、幸せを感じているかという、ウェルビーイングの視点です。

そのために、学校園が、子どもたちにとって魅力的な場所となっているか、心理的に安全な居場所を提供できているかということをしっかり振り返る必要があります。

2点目は、時代への順応という観点です。

現存の職業の多くがAIに取って代わられ、近い将来姿を消してしまいかねない先行き不透明な状況の中で、将来の夢や目標を持つことが本当に可能なのでしょうか。むしろ、夢や目標を曖昧なままに生きていく方が、変動社会に適応できるという面があるのではないかとも感じます。そういう意味では、将来の夢や希望については、職業ではなく、どんな大人になりたいかということを、まずしっかり考えさせることが重要なのでしょう。

今後、子どもたちが自らの将来を主体的に切り拓いていけるような力をつけるために、学校園はどうあるべきか、教師はどのように支援していくべきかを真剣に考えねばなりません。

多忙な学校園の現場において、そのような教育の根幹に関わる議論がどれくらいなされているでしょうか。若手教員が増えている一方で、教員離れも深刻になっている今だからこそ、そんな議論を徹底的に交わすことが必要だと思うのです。

そして、生徒指導提要に子どもの権利が掲げられ、こども基本法が成立した、この時機を逸することなく、保護者に対しても、子どもとの向き合い方について根気強く啓発していきたいものです。

※豆塚 エリ　詩人・エッセイスト
「訪問介護事業所 tetote」経営
「NPO 法人こんぺいとう企画」理事長として障害者の就労支援も行う。
1993 年愛媛県生まれ、大分県育ち。現在も別府在住。
高校生(16 歳)のときに飛び降り自殺を図って、頚髄を損傷し、以後車いす生活となる。
2016 年より NHK ハートネットTVにて当事者コメンテーターを務める。
2022 年に自伝的エッセイ『しにたい気持ちが消えるまで』を出版し、「2022 ヨンデル選書大賞」受賞。
文筆家として様々なメディアで執筆する他、全国で自殺予防の講演会を行うなど精力的に活動している。

今年度の研修は全て終了いたしました。運営にご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。
各研修の最終回の内容を、一部紹介します。

初任者研修（小・中）

第16回 【2/13・2/15】 閉講式

令和5年度初任者研修の閉講式を行いました。閉講にあたり、初任者から「教師としての志」として、この1年間を振り返っての成果や成長、今後の課題や目標を所信表明として発表しました。どの初任者も、1年間での学びや見えてきた自分の課題、次年度への決意、支えてくださった方々への感謝の気持ちなどをしっかりと伝えることができました。

また、大津市小・中学校校長会を代表して、2名の校長先生にもご出席いただきました。「信頼される教師を目指して」をテーマとして、ご講話もいただき、今後の教師としての在り方について多くのご示唆をいただきました。

【初任者の声】

＊学習指導能力だけでなく、学級経営能力も同時に向上させていくことの大切さを学びました。子どもたちによい影響を与えられるように、一人一人の子どもとこまめにコミュニケーションをとったり、子どもの声にしっかりと耳を傾けたりする中で、信頼関係の構築に努め、自身の学級経営能力向上に努めていきたいです。

＊「信頼される」というのは、そもそも誰から信頼されるのか、人から信頼されるためには何が大切なのかを学びました。教えていただいた「信頼されるために必要な10のこと」を大切にしていきたいです。

＊この1年間の研修は、現場ですぐに活用できる内容ばかりで大変勉強になりました。また、同期の先生は、悩みを共有したり、相談したりすることで心の支えとなっていました。今後も人とのつながりを大切にしながら、謙虚な姿勢で学び続けていきたいです。

＊生徒と向き合う時間、生徒の学習をより豊かにするために学ぶ機会はとても大切だと感じました。この1年で学んだこと、これからの研修も大切にし、教師としてよりたくましく成長したいと思います。

ミドルリーダー研修

●第4回（2/22）

ミドルリーダー研修第4回は、個人研究の発表と閉講式を行いました。

研究発表では、それぞれがテーマを設定して研究・実践した成果を、グループ別で交流・協議しました。テーマには、校内研究やOJT研修の在り方などの教職員の連携に関してや、道徳教育や特別活動などの実践に基づいた児童生徒の集団づくりの取組についてあげられていました。

3月末には、レポートにまとめた研究成果物を「OIE-NET 教職員向け Web ページ」で公開予定です。

【ミドルリーダーの声】

＊研究発表や指導助言から、組織として教員同士がつながることの大切さについて考えさせられました。互いのよさを認め合い、高め合える関係づくりのためにできることを、研修での学びを踏まえて考えていきたいと思いました。

＊グループのみなさんの発表から、改めて同僚性を高めるためにコミュニケーションを積極的に図っていきたいと思いました。

教職２・３年次研修（小・中）

２･３年次研修では、１年を通しての課題研究および授業公開を研修のひとつとして位置づけ、２月に課題研究発表会を行いました。小学校は２年次に算数科、３年次に国語科を研究の窓口として指定しています。また、中学校は、専門教科や特別の教科　道徳、特別活動を研究の窓口として指定しています。

どの年次の教員も、年度当初に設定した授業研究テーマについて、１年間の実践や成果・今後の課題をグループで交流し、協議しました。

プレゼンテーションソフトでの発表や、画像・実物資料を持参しての発表もあり、どのグループでも熱心な交流と協議が行われました。発表することで自分の実践を改めて振り返ることができ、また、他の受講者との質疑応答や指導助言により授業づくりについて深く考えることができました。

２年次：小学校教員

２年次：中学校教員

【２年次教員の声】

＊（小学校）これからの時代を生き抜く力を子どもたちにつけるためには、教師は「教える」より「ファシリテーター」や「学びの伴走者」としての視点が大切であると感じました。子どもたち一人一人をしっかり見取り、適した支援を模索していきたいです。

＊（中学校）実践交流を通して、授業前の準備や単元の見通し、ゴールの設定が大切であることに改めて気付きました。また、他教科の先生の実践から、話合いの中で他者評価を入れると、生徒が主体的に学び、振り返りがよりよいものになることを学んだので、参考にしていきたいです。

3年次：小・中学校教員

【3年次教員の声】

＊（小学校）実践交流を通して、授業づくりの重要性を感じました。グループでは「振り返りをどう書かせるか」ということが話題となりました。今後も、「子どもに何を学ばせたいのか」を考え、ゴールから授業を組み立てることに取り組んでいきたいと思いました。

＊（中学校）生徒の意欲を引き出すための手立てについて考えることができました。特に振り返りシートにおけるルーブリック評価の導入については、生徒、教師ともに学習の成果を把握しやすく、学習意欲の向上につながると感じました。また、様々な実践を聞いて、生徒自身が成長を感じられる課題の出し方ができるように工夫しなければいけないと思いました。

中堅教諭等資質向上研修（小・中）

１月23日に研修の最終回ならびに閉講式を行いました。滋賀大学・京都文教大学非常勤講師の田村靖二先生にお越しいただき、「リスクマネジメント～教職員に求められる学校危機管理力～」をテーマに、様々な事例の検討を通して、危機管理の観点や危機に対する気付きの大切さをご指導いただきました。閉講式では、大津市教育センター所長より、勤務校のリーダーとして自信を持って学校を引っ張っていけるよう、絶えず学び続け、実践していくことの重要性について講話がありました。

【中堅教諭の声】

＊人を育てる職である教員は、「人の感情」に細やかに気付く力をつけていくことで、リスク回避につながるとわかりました。感情に寄り添うことを常に意識していきたいです。

＊中堅教諭として、危機に気付き、危機管理の視点をしっかりと持てているか、また、周りの教職員と情報を共有することができているかを再確認できました。道徳性の発達の話を聞き、勤務校の現状を考えると、まだまだ水準が低いように感じます。発達段階を踏まえた指導を心掛けたいです。

OJT 推進リーダー研修

2月29日の最終回は、現在の学校事情を踏まえ、オンライン形式での研修で実施しました。各校の OJT の実践例を持ち寄った小・中学校別のグループ交流を通して、自校の実践を振り返ったり、次年度に向けて成果と課題を検討したりしました。規模が近い学校同士でグループ交流を行ったので、小規模校、大規模校ならではの課題の解決法を考えたり、OJT の時間確保の難しさ、研修方法の工夫を話し合ったりし、様々な意見交流を行うことができました。

OJT 研修は若手教員の育成だけでなく、すべての教職員が学び続ける場として、今後ますます学校全体としての取組が求められます。他校の実践例を参考に、自校の実情に応じた効果的な OJT 研修を検討できるよう、今年度の市内すべての小・中学校の実践例を、校支援ライブラリに掲載しています。どうぞご活用ください。

「わたしたちの大津」編集委員会

今年度は、昨年度に引き続き、小学校3年生・4年生社会科副読本「わたしたちの大津」第18版（改訂版を含む）を活用した研究授業を実践しました。実践した授業は、①3年生「市のうつりかわり」、②4年生「県内の特色ある地域」の2授業で、わたしたちの大津編集委員会において指導案を検討した上で、編集委員が研究授業を公開しました。本編集委員会では、2年前に教師用指導書を作成し、Web 上で公開しています。その指導計画を生かし、主体的・対話的で深い学びが実現することを目指して授業づくりを行いました。

両授業の実際の様子、その成果と課題については本年度中に Web 上で公開する予定です。ぜひご覧いただき、指導の際には参考にしてください。

令和5年度 学校園教育研究委員会

保育・授業の参観を伴う研究会を実施しました。実際の子どもの姿から、非認知能力の一つである「主体性・共感性」を育む保育・授業づくりの工夫や教師の関わり方について探ってきました。研究のまとめは、リーフレットにして各校園に送付いたします。ぜひご覧いただき、学校園の連携・接続の参考にしてください。

「次代を生き抜くための資質・能力と学校段階における接続を探る」
～非認知能力における『主体性・共感性』に焦点を当てて～

平野幼稚園 5歳児
（製作遊びを通しての伝え合い）

瀬田小学校 1年生
（特別の教科 道徳）

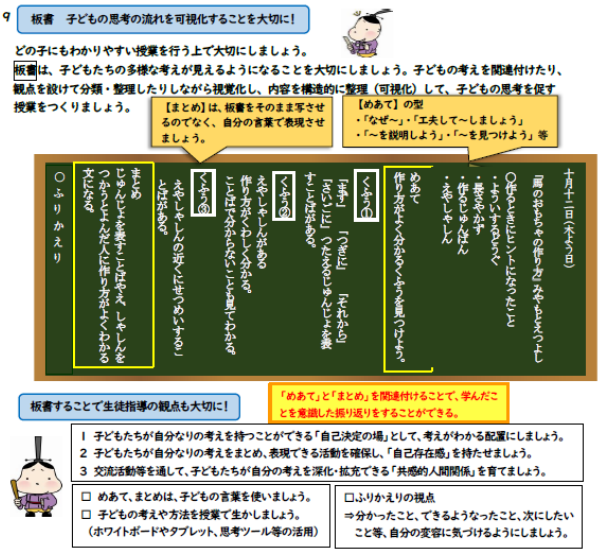
粟津中学校 1年生
（国語科）

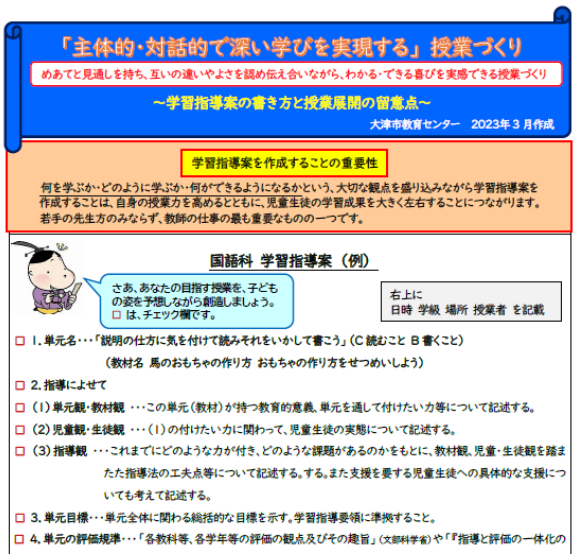
OIE-NET 教職員向け Web ページの活用について

昨年6月発行の所報213号でご紹介しましたとおり、「教材データ・実践事例」の中の「読み解く力を高める授業改善」には算数科（数学科）、社会科、道徳科、学級活動（1）（2）（3）の指導案様式（ワード形式）と指導案作成に関するガイダンスとなる指導資料リーフレットを掲載しています。

今回、新たに国語科を作成するとともに、社会科のリーフレットを改訂し、学級活動も国立教育政策研究所作製の映像資料が視聴できるように QR コードを加えました。

次年度も、初任者一人一人に配付する予定です。各小・中学校においては、校内での初任者研修や2・3年次研修、校内授業研究会等でぜひお役立てください。





若手教員育成学校園訪問を実施しています

大津市教育センターでは、主に経験年数が5年以内の若手教員（講師を含む）を対象に、幼稚園、小学校、中学校への訪問指導を実施しています。今年度は、幼稚園30人、小学校95人、中学校64人、合計のべ189人の先生方に対して学校園を訪問し、保育・授業を参観する中で、保育・授業づくり、学級経営について相談及び助言を行いました。

各校園ではこの訪問を若手教員の指導機会と捉え、対象の教員と共に保育や授業、学級経営などについて考えていただきました。その中で、試行錯誤しながらも子どもたちと真剣に向き合い、自身の保育力・授業力を高めていこうとされている多くの若い先生方の姿が見られ、大変頼もしく感じました。

新年度改めて通知をしますが、訪問期間は6月～2月を予定しています。ぜひご活用ください。

教育センター図書をご利用ください

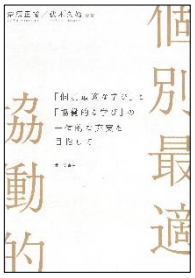
新刊

『貸出図書紹介』コーナー

教育センターでは授業づくりや、園児・児童・生徒支援に役立つ図書を貸し出しています。その中から、一部ご紹介します。

その他にも、興味深い書籍を多数揃えております。貸出の詳細は、教育センター所員にお問い合わせください。

（TEL 077－522-1910）



『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して』
奈須正裕・伏木久始 編著
北大路書房 出版

『「深い学び」を実現するカリキュラム・マネジメント』
田村 学 著
文溪堂 出版

『個別最適な学び×協働的な学び×ICT入門』
佐々木 潤 著
明治図書 出版

『7本指のピアニスト 僕が奇跡を起こせた方法』
西川 悟平 著
KKロングセラーズ 出版

授業で意識をしたい「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、また、カリキュラム・マネジメントや ICT を活用した学びについての実践例が多く紹介されています。

「何事も行動を起こさなければ変わらない」「失敗という経験が人生において大きな力を与えてくれる」…そんなメッセージが詰まった一冊です。